



## 「七五三」 健やかに成長するよう祈願する行事

「七五三」は、「3歳の男女」「5歳の男の子」「7歳の女の子」が行う人生の通過儀礼です。それまでの無事の成長を祝い、これからも健やかに成長するよう祈願する行事で、11月15日に晴れ着を着て神社に参拝する習わしがあります。



今でこそ七五三という一つの行事になっていますが、もともとは公家や武家で行われていた「髪置き」「袴着」「帯解き」という別々の儀式で、年齢・性別・日取りなどは時代や階層によって様々でした。一方、農村部を中心とした庶民の間では、子どもの年祝いをする風習が古くからありました。特に神社の氏子になる7歳の節目を重視していました。江戸中期以降これらが融合し、明治時代に現在のような七五三になって、戦後、全国に広まってきました。7・5・3という年齢の区切りは、奇数を吉数とする陰陽道に由来するとされています。七五三が成立した背景には、昔は医療も発達しておらず乳幼児の生存率が低かったため、子どもの健やかな成長に対する強い思いがありました。昔は「七つ前は神のうち」といわれ、7歳までは神様に守られているので何をしてもバチが当たらないが、魂が定まっていなため、いつ死んでもおかしくないとされました。そこで、3歳・5歳・7歳という節目の年齢を迎えると、晴れ着を着せて神様に成長を感謝し、これからも健やかに育つよう祈願したのが七五三の由来です。7歳になると「神のうち」から神様をまつ側の氏子になり、社会の一員になったのです。

## 『勤労感謝の日』 家族が互いに協力・感謝し合う日



11/23は「勤労感謝の日」です。戦前は、秋の収穫に感謝し、「五穀豊穰」を祝う宮中祭祀の「新嘗祭」として制定されていました。それが戦後、昭和23年に公布・施行された国民の祝日に関する法律で、「勤労感謝の日」と定められました。この祭日の趣旨として、「勤労を尊び、生産を祝い、国民互いに感謝し合う」と記されています。つまり互いの働きを認め合い、働きに感謝するということです。

世の中には約1万7千に及ぶ職種が存在し、それらは網の目状に複雑に関わり合いを持ちながら存在しています。それぞれの職場において、多くの人たちが協力し、互いに助け合いながら仕事をスムーズに進めています。また家庭においては、日々の家事や育児、介護などを担ってくれる家族の存在があるからこそ、安定した生活を送ることができます。近年は共働きの世帯が増え、男性が家事をする家庭も増えてきました。家族が互いに協力し合い感謝することは大切です。そして、日々働けることを喜び、自分が置かれている環境に感謝しましょう。この日は、そうしたことを振り返る一日にしたいものです。



勤労感謝の日